安南筆記

十四止

十四終

1曾5
494
14止

舳艫訓 之全

一劔術銘術ノ段ヨリ 父子亦相似ノ段マテ不記ナリ

一舳艫訓 玉篇云舳音逐舳艫也字彙云舳船後持舵處詳校篇海云舳直祐切舟首也玉篇云艫力胡切在船後者字彙云艫船頭刺櫂處饋字彙補云艫力居切集韻云船尾此等ノ字注舳ヲ船後トレ或舟首トス然ハ舳ハモトモモ其文章ノ趣ニ依テ訓ヘシ倭名抄云舳兼名苑注云船前頭謂之舳注云音逐漢語抄云舟頭制水處也和語云閉ゝ艫兼名苑注云船後頭押之艫注云音盧楊氏曰舟後刺櫂處也和語云度毛負文按我國ノ古書ヲ讀ニハ倭名抄ニ從テ舳字ヘ艫字トモトヨムヘキ歟日本紀

妙寿院
惺窩先
生京極

二舳字ヘト訓ヲ付タリ　艫字ヘト訓ヲ付タル所モタマ
タマ有リ　新撰字鏡云舳以周治六ノ二ツ反艫ノ舳
止モ毛艫力魯反舟前梟也戸コレハ倭名抄ト
相表裏セリ　舳艫ノ訓トモヘ一定ナキ歟　文
章ノ趣ニ依テヘヒトモヒ訓ヘシ
一廻ノ字　假名ノ廻ノ字白石翁曰文通考ニ遍ノ
字也ト云ヘリ誤也　負文按舳ノ字草書也舳字
和名抄和語云閉トアリヘノ訓也偏ノ子ハ舟也
傍ノ丑ハ由也廻ヲ廻ニ作ハ誤也
一注傳訓點　注傳ノ訓點ニ道春點ト云テ版行本
アリ是林家ノ元祖道春ノ付ラレシ訓點也

中納言
定家卿
十二世
孫也父
冷泉爲
護卿

道春、惺窩先生、弟子也惺窩ハ公家ノ人也サレハ
訓點モ昔ノ明経博士記傳博士等ノ家ニ傳ヘシ
所ヲ受テ道春ニモ授ラレシナルヘシ道春ノ意ヲ
以テ私ニ付ラレシ訓點ニテハ有ヘカラス　詩注文選
千字文其外音ト訓ヲ一度ニ並ヘテ両點ニ讀ケリモ
昔大學寮ニテ諸生ニ教授セシ時ノ讀法ナルヘシ
是音訓ヲ一度ニ覚エサセンガ為也近世ニ至リ林
家ノ傳ヲ受ケズ自作ニ讀テ古傳ノ訓點ヲ用ザル
者モ多シ昔ノ訓點ニ誤モタマ〳〵アルヘシ其誤共ニ
古ノ傳レル誤ナルヘシ（古ノ訓ニハ古語多シ近年ハ其古語ヲ改タル点アリ）
一信綱才智　寛永年中ノ御老中松平伊豆守信綱

八文智按群ノ人ニテ事ニ臨テ急ニ其智計ノ發スル
ヿ常人ノ及ザル所也智嚢トス書ニ多ク其事ヲ記セ
リ予其事蹟ヲ以テ考ルニ信綱文智秀タル人ナレ共
生得ハ小量ノ人ナリシニヤ其文智俗間油小ノ支ニハ
秀タル事多カリシガ大事ニ當テハ秀ザル事有シ
智嚢云　家光公御代吉利支丹宗門一揆を起し
肥前國有馬の古城を元立籠城しける時為
御下知松平伊豆守殿則彼地へ按蒐（スケガケ）し
自分文智働終ニ落城しける我ら討死御軍法
平付れ申す。豆州子息甲斐守自分ら働る名有と
ゝ　法軍勢ら内迯ける者多
かりける故ゆえ大久保彦左ゟ帰陣なし按蒐
大久保彦左ゟ大坂へ首尾を金吾度し登多
きゝ分の仕有昔人ゟ我仕ゟ大ゟとゝきゝ
故終ゟ大ゟ不成者人ゟ成ゟ落事論語ノ
以按伊豆ゟ後へ申ける伊豆ゟ後小考ゟ利ゟの事と
のゟ人ゟ武切ゟ人ゟ
夫ハ仕事ゟ成ゟと
ゟ人ゟの細ゟ成ゟ
扨ゟ故ゟ
御ゟ故ゟ
按蒐ゟ

向より甲斐まかり下り度旨我が今度出軍代として
諸軍勢法令を申付る処に我が子として一人軍法を破り
校葉紋ゆる沙汰の限りとして刎甲斐をと追放申
扨又甲斐へ入る者を山へ入寄せ沙汰をなすべ
扨彦城の屋敷沙汰仕り彼仲と申上ず
名誉にうしなはせのこすべき定にて侍先
ずて召返れ申べ　上意なるべ　を付　君命ふ
かひ召返候て弁一甲斐へ入る者八日年ふかくあり
まりを心ぞ伊達の事
あく有れば事をいとまなく沙汰なく患れ登
なるべしと申れハさてまた伊達
大久保彦左衛門ハ道理ふかく抱して一云の返答を及ばれ
感心せられる再三ふかく冥加又柳営故諺記云
家光公の時朝鮮人来朝登城前侍櫓の白土塗し
を塗之寄ハ成ハ是ハ抱上使　遣れ前白土を付せ
申ハ松平伊達信綱ハ外の侍櫓の戸
をなぜ是を塗之寄ハ
大坂陣利勝ハ夫ハ是ハ
へハ不成るを
ゆくれ急ぎ足代を
成れ彼の働も出ハ其外の者に
不及事ハ
大久保彦左衛門の
侍櫓の白土塗の事
侍櫓の戸
侍大明
ハ抱ハ
代を付て
自分ハ
働も出ハ
思れ
侍人

かゝる事ハ伊豆殿なの事ハ思ひ込て感
入れ世間ハ初と某一生の心掛ハ小て仕とゝ
夏文云信綱ハ小量の人なれ共其戈智の敏さ不小
ニテ軽し利勝ハ大量の人なれ共其戈智の敏さ不
大ニシテ重し信綱の例ハ人なれ共其頑智を感ずべし
利勝の例ハ智あきらめし紀其大ニ味あり小量と大量ハ
自然の生得にあり之量に随て戈智の大小ハ生涯保
あり也天下の執權職ハ必大量乃人を用へし小量の
人ハ其下に置て輔とるべし執權職小度人仁改を
行ひて万民を撫育せんハ君の仁なるを知ず
義勇を尊ひて万民の膏を吸ひ上に金銀をあつめ

ここに君の所倉に納るを以て君の仁なるを知
人ハ大量小量ハ此ハ及ざる下賤卑劣の大愚人
乱逆乃種を蒔く者也憎ムべし

髮置

一小児剃胎髮後髮置 小児生タル時胎髮ヲ剃り始
髮置二三歳 二至テ髮置ノ祝スル事国史鏡類世譜類其
外古物語等ニ見エタリ武家ニテハ東鑑ニ見エタリ京都
将軍ノ比ニハ将軍家ノ若君ニ此事アリ蜷川親元殿中
日記ニ見エタリ後水尾院年中行事ノ御抄ニ皇子御髮置
ノ事アリ不シテカト云物ヲカヅケ奉ラル其製綿ニ根ア
ト松山橋ノ三等ノ物ヲ結ヒ付トアリ是地下ニ用ル小笠原
流ノシラカニ似タリ後代ハ禁中ヘ民間ノ俗事ノ移リ

上リタルトアリ彼御抄ヲ見テ考ヘレ古代キヲ多シ
一獅子舞　百煉抄後深草院宣治二年四月廿日丁未
新日吉祭也獅子舞云云　昔ヨリ神祭ニ獅子舞アリ
レ也　大平記庭訓往来等ニモ獅子舞アリ

百煉抄云高倉院承安二年六月十四日祇園御灵會上皇御見物桟敷刷之神輿三基師子七頭去四日自院被調進之

一名作刀退妖魅　古ノ名匠ノ作レル刀劔ハ妖魅必怖レ者也　予カ近隣ニ小出弾正ト云人アリ宗近カ作ノ鑓ヲ持傳タリ（宗近ノ比ヤリト云名ハナレ是ハ古ノ手キコナリ）一日其近所ノ酒店ノ奴童俄ニ狂乱シテ曰我ハ小出弾正所ノ稲荷ナリ我社ノ方ヘ鑓ノ鋒ヲ向ケ置ユヘ甚マヅシ早ク掛ケ改ムヘシト云ニ依テ其旨ヲ小出方ニ告タリシニ其鑓ヲ見レハ常ト違ヒ逆ニ掛テアリ召仕フ侍ノシタルワザ也依之社ノ方ニ向タル鋒ヲ此方ヘナシテ掛改ケレハ忽彼奴童正気本心ニナリシトゾ弾正カ直隣ノ小出助四郎英通カ予ニ於リキ彼稲荷ハ狐ヲ祭タル社ナレハ宗近カ作ヲ怖レシ也名作ノ刀劔ハ其鍛近ノ精神ヲ其刀劔ニ凝シ留メ殺気（スル）火（ドニ）シテ其刃鋭利ナルカ故ニ妖魅是ヲ怖レ也サモアルベキ理也然ルニ俗説ニ名作ノ刀劔自ラ鞘ヲヌケ出テ妖魅ヲ斬タルトヱフヲ於ハ妄説也刀劔活物ニ非ス何ソナルトアランモシサルトアラハ是妖物也或説ニ名作ノ刀劔自ラ鞘ヲヌケ出テ物ヲ斬ルトアルベハ

菖蒲甲藤森ヨリ始ルノ諸

平家ノ一門西海ニ赴キ八嶋ノ合戦ノ日天皇ノ宝劔自ラ鞘ヲヌケ出テ義経以下ノ首ヲ斬ベキニサモナカリシトニ云ヘリ尤理ハリ也ト云ヘシ

一 菖之花○五月五日幟菖 或問増鏡うちぎゝの雪の巻に五月五日よりかふとの花くさなどあまた[illegible]おなしきあれりとあり かふとの茎いと又五月五日幟菖立ける事いつよりより始りや 其云ふとの花かの古事なりとへだされば何とも委からし 又五月五日民間門にも幟かゝる事[illegible]上古よりあることにや[illegible]先年中風俗考ト云書なとにも[illegible]書に記せるは先年光仁天皇ノ御代天応元年蒙古の国より軍兵を

社根元記ニアリ其文神道名目類聚抄ニ引ケリ

渡して我國をせめ来る由聞へしかハ諸社にて御祈有し内山城国藤森社にても御祈ありしに秋八月かの蒙古のえびす共が乗来りし船日神風吹て賊船こと／＼く破れしえびす共海にしつみうせぬこれ五月五日の事也 まことにして藤森社の祭五月五日民間にてかのえびすをうちほろぼせし事をいはひて祭礼供奉ノ者太刀刀ハき菖蒲のかぶとなと用ゐ始ける也それ藤森社の縁起ニ見えたり由志あるさまなり なんや 後日藤森縁記をよく見るへし

一 校書 書籍ヲ校合スルニ讀合校合ヨリハ見合セ校合宜キ也 讀合校合ハ一人本ヲ見居テ一人ニ一本ヲヨマセ

テ其異同ヲ校スルニ異字同音アルニ字音ノミ聞テ
字躰ヲ見サル故其異字ヲ知スレテ違ナレト思フ
アリクトヘハ鉄珠異字同音也樓鏤異字同音ナルガ如シ
見合ヤ校合ハ我一人ニテ両本ヲ並ヘ置テ字躰ヲ見
分ケ校スル故異字同音ヲ明ニ糾也又擣合ニテハ者之
而于於等ノ助詞字有無知レサルヿアリ假名本モいろひ
へにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむうゐのおくやまけふこえてあさきゆめみしゑひもせす
校合ハめしきあはせ

一赤衣　本名垂衣ト云延喜神祇式践祚大嘗會ノ
章ニ云小斎親王以下皆青摺袍五位以上紅垂衣浅深相副
自餘皆佐ト云ヘリ此式ニハ紅トアリ後代ハ櫁芳ヲ

用ユ浅ト云ハ紅色也浅ハ深ニ對シテ云ヘリ紅ニハアラス深トハ紅色ノ深ノヲ
里キニ至ルヲ云後代ハ櫁芳ノ濃キ薄キ濃ハ里キナリヲ用ユ
垂衣ハ佐ハズレテ肩ニカケ長ク垂ルナリ年中行事
ノ儲ニ此躰見タリ佐衣ト垂衣ハ佐テ垂ル也此佐ヤウ後代
ニハ五位以上以下ノ差別ナリ三ツ打ニ個ム也古代ハレカラ
ズ清少納言枕草子ニ小兵衛といふがあるひものそ
なるをこれをもすぐやとくばさまよろしの中將ありて
はくろあるすしたるすす
あしひきの山ちかくいかれるをいとをかしひま
とるたるこん
とりひろく清少納言小兵衛ふらうして

うせてこそあれ　あまたにむすびつる紐をばしどけなくすひぐふゆふだすき
あまたにむすべるとゝ云ふ説也あまび結をそなくいつゝ　ちり昔ハ
赤紐をばひもとゝ云ふ　ゆかり一条兼良公の大
章會北市抄ハ赤紐をいひて紗を畳てあふしむすび
をゝ泥絵を書て　右の肩ハ二ツ結つゝ中をゝ
あふしむすびあはゝ　あはゝ文明の比まても民
あまひ結ふをゝ　ゝ我むすふをゝて三ツ井小但も事ふなり
しいつの比より始りけん　詳ならず

一額烏帽子　夫木抄三西行法師ノ哥ニ　篠撓テ雀弓
張ル男ノ童額烏帽子ノ欲気ナル哉　年中行事　僧
巻物ニ男童ノ額ニ黒ノ三角ナル小キ物ヲアラタル躰

浅葱ノ夏

所〻ニ見タリ是ヒタ井エボシ也　按幼帝御元服以前
空頂黒幘ト云テ黒ノ羅ニテ作リ　如此形ナル物ヲ
御額ニアテタマフ也是御冠ノ代リ也額烏帽子モコノ類
ノ物ナリ今世モ民家ニテ死人ノ額又葬送ノ供者ノ
額ニ白紙ニテ三角ナル物ヲ作テアフルハ額エボシ遺
制也古キ事モ古キ詞モ田舎民家ニ傳ハリタル間〻
アリ又今世民家ノ葬送ニ麻ノ肩衣袴ヲ薄藍ニ染
テ浅葱上下トテ著ルハ青鈍ノ遺制也服者ノ服
色ハ鈍色トテ鼠色也ソレニ少藍ヲ合セテ染ルヲ青
鈍ト云是又服者ノ用ル色ナリ薄藍ト薄青トハ
差別アルヲ裝束抄ナドニ浅葱ヲ凶服ニ用ル由記セルモ

アリ薄藍ヲハ薄青トモ浅葱（アサキ）トモ云テ常ニ用ル色ナリ山服ノ色ニハアラザルヲ青鈍ニ似タルユヘ訛レテ山服ノ色トシタルナリ服者ノ扇ノ紙ノ色浅黄ヲ用ルトモ云モ浅黄ハ浅葱ノ誤ニテ青鈍ノ紙ヲ用ル事ヲ云ナリ薄藍ト青鈍浅黄ト浅葱（キ）混雑スベカラズ能分別スベシ

一如意宝珠　日本紀仲哀天皇紀曰二年秋七月辛亥朔乙卯皇后泊豊浦津是日皇（后）得如意宝珠ヲ於海中ニ

按如意宝珠ノ名ハ仏書ニ在リ大蔵法數五十二ニ云如意宝珠者天上勝宝狀如（シカラニアラ）水果能出衆宝随心降雨也又飜譯名義集ニ如意宝珠珠之摠名也ニ一名摩尼珠ニ見エタリ是仏家ニ云フ名也仏法八十四代仲哀天皇ヨリ十六主（神功皇后ヲ除）ニ當リテ二十九代欽明天皇ノ御代ニ始テ渡リ其御代敏達天皇ノ御代再ビ渡テ弘マレリ仲哀天皇ノ御代ハイマダ仏法無之然レバ仲哀天皇ノ御代如意宝珠ノ名ヲ記サレシハ舎人親王ノ誤也釋日本紀曰土佐國風土記曰吾川郡玉嶋或説曰神功皇后巡國之時御泊之皇后下嶋休息礒際得二白石圓如鷄卵皇后安于御掌光明四出皇后大喜詔左右曰是海神所賜白真珠也故号嶋名ト見タリ是ハ土左國玉嶋ニ於テノ事彼如意宝珠ハ豊前國豊浦津ニ於テノ事相似タリ力ノ

如意宝珠別ニ正名アルベケレ𪜈其名失ヒテ古老如意宝
珠ト誤リ云傳ヘタル故ニ其言ニ隨テ舍人親王モ記
シ玉ヒレナルヘレ

一神璽　神璽ト称スル者三ツアリ此差別ヲ知ザレバ古書
ヲ讀テ迷フフアリ三ツト云ハ一ニハ八咫鏡草薙劔ノ二種ヲ
合セテ惣名ヲ神璽ト云日本紀古事記古語拾遺其外
上古ノ書ニ神璽之鏡劔ト云是也二ニハ天子ノ御印ヲ
神璽ト云奈始皇ノ時ヨリ天子ノ印ヲ璽ト称ス我朝ニテモ
其レニ擬テ天子ノ御印ヲ神璽ト称ス神ハ貴ブ詞也職員
令公式令名例律詐偽律賊盗律等ニ神璽トアルハ
天子ノ御印ノ事ヲ云也（名例律ノ注ニ鏡劔ノ事トシタルハ大誤ナリ）三ニハ後代ニ

（古書ニ劔璽氏璽劔氏アリ璽ハ神鏡ヲ指スモ玉ノ事ニハアラズ）

至テ八坂瓊曲玉ノ事ヲ神璽トヲ云此玉上古ハ神宝ナレ𪜈神
璽トハ称ゼサル長久元年神鏡ハ焼ケ碎ケ宝劔ハ文治
元年西海ニ沉ミテ神代ノ古物ハ只此玉ノミ残レル故ニ後
代ニハ此玉ヲ神璽ト称スルヿニ成レル也璽ト云意ニテ鏡劔玉（ハ驗ヒヒ）
ノ三残ルル二種ヲ神璽トヲ云ハ讓位ノシルシトヲ云義也後ニ曲
玉ヲ神璽トヲ云ハ神孫ノシルシトヲ云意也古今璽ノ意味同カ
ラズ又原平盛衰記ニ宝劔イマダ海ニ沉ザル以前事
ヲ書タル所々ニ神璽宝劔トアレハ右ノ説不審ナレガ如シ然レ
トモ盛衰記ハ後ニ書キタル者ナレバ後ニ當時称スル所ヲ
以テ書タルナリ

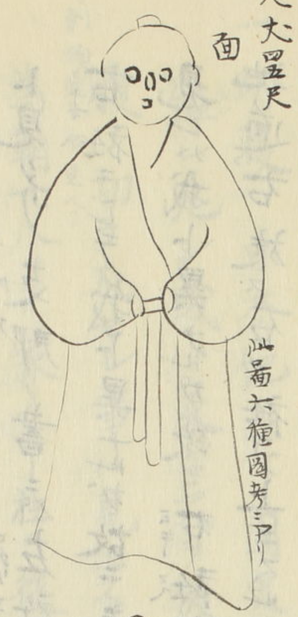
一豫参　豫玉篇ニ戈庚（シヲ）切或作預ニトアリ預字彙ニ與豫同ジ

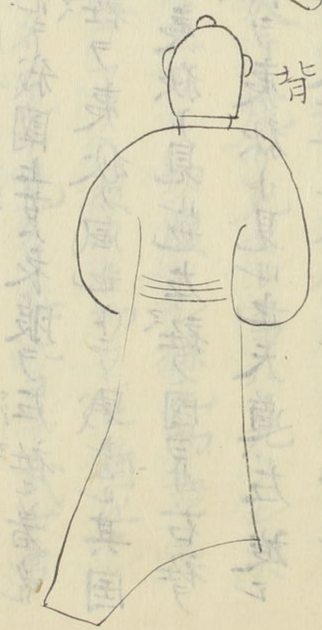
又及也(アヒル)干也参豫也トアリ参豫ハマジハルトヨム豫参モ同意
ニテ其場所ニ行キマジハル意也禁秘抄上蔀扁ニ權中(女房ノ名)
納言狂者類ニ豫参不可例(レイ)トアリ此豫参メ〻参ル丁也
禁中ニ参上スル也今世武家ニテ豫参ト云ハ豫字アラ
カジメヨミテカ子テ先(キ)立ツテ ナル故ニ 将軍家上野増上
寺ナドヘ 御成ノ日御先(キ)ニ寺ヘ参リ居ル役人ヲ豫参
ノ者ト云豫参ノ詞古今暦ルナリ

一我國上古衣服 我國上古ノ衣服ノ躰詳ナラズ文武天皇(四十二代)
ノ御時ヨリ唐朝ノ風俗ヲ移シ用ラレシヨリ朝服ノ躰モ
変シ改リシ歟河内ノ國石河郡山中ノ古墳ニ塡立タル石
人ノ衣服ノ躰是我國上古ノ衣服ノ躰ナラン歟 袖口窄(ツボ)

クレテ衽(エリ)ハ右(ミギ)ヲ上ニ重子タリ其図左ノ如シ

石人犬型尺

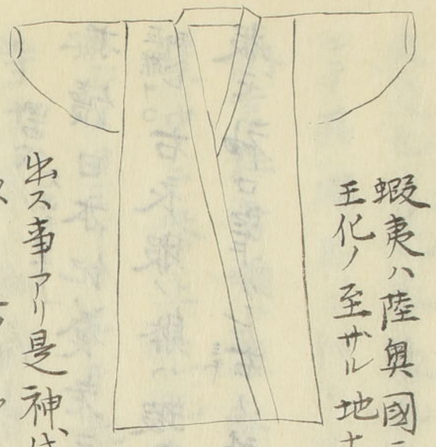




出雲六種國考ニアリ

四十四代元正天皇
按續日本紀養老三年二月壬戌初テ令天下百姓ヲ右襟(ヨリ)ヲ以前ハ
左襟ヲ知ヘシ右衣服ノ躰ハ蝦夷ノ衣服ノ躰ニ能ク似タリ蝦夷ノ衣
服モ袖口窄リシ右(ミギ)ノ衽ヲ上ニシテ著スル也其図左ノ如シ

北條史ニ于山海経



蝦夷ハ陸奥國ニ隔スル處ニテ日本ノ内ニ在ル大ニ遠キ處ニテ王化ノ至サル地ニ故外國ノ如ク成レリ 支那ノ書ニ北倭ト云ハ蝦夷ノ事也ト云フ 敏製ナドモ我國ノ製ニ似タリ 蝦夷ニハ我國上古ノ衣服ノ躰改ラズシテ 衽ヲ右ヲ以テ上ミスルヿマデモ傳リシナラン其風俗モ我國上古ノ風俗ニ似タル事アリ 罪ヲ謝スルニ宝物ヲ多クノ出ス事アリ是神代ヨリノ風俗ニ贖物ヲ出シテ罪ヲ謝スルニ似タリ 右ノ右人ヲ見ルニ我國上古ハ衣服ヲ左衽ニ著ル ト見タリ 支那ノ書ニハ左衽ヲ夷狄ノ風セトテ賤シムル其国右衽ニシテ我ト異ナルガ故ニ夷狄ト見ル也左衽ノ國ヨリ右袵ヲ見レハ我ト異ナルガ故ニ右衽ヲ夷狄ト見ル也天道ハ左旋シ地道ハ右旋ス右ノ衽ヲ上ニスルハ天道ニ叶ヘリ左ノ衽ヲ上ミスルハ地道ニ叶ヘリ左衽右衽ニ貴賤アルベカラズ我國ノ上古右ノ衽ヲ上ニシテ著タリトテ恥ベキ事ニハアラズ

武藏鑑ニ于刺頸死テ条見ヘシ

一切腹 日本紀以下國史ニ自殺シタル人見タレモ皆自ラ盛レ死シ或ハ家ニ火ヲ放テ焼ケ死セシ事ハ見タレ共腹ヲ切テ死セシ事ハ見エス上古ニハ切腹ナシ保元物語ニ為朝七八ニテ家ノ中柱ニ後ヲアテ腹カキ切タレ共猶死ナレズ後ノホ子ヲフツト切テゾフシ給ケルト見タリ此ヨリ武士勇氣ヲ示サンガ為ニ腹ヲ切ルヿ始リシナルヘシ君命シテ臣ニ切腹セシムルヿハ又遠ノ後ニ始ル歌

一いろは 貝原好古ガ和事始云簏中抄ニ云四十七字本歌詞也護命空海作之いろはにほへとちりぬるを（以上護命作之）わかよたれそつねならむうゐのおくやまけふこ

江てあさきゆめみしをひもせす　空海作之護命空海同時の人ふり

○貞文按簾中抄を見るに小和支始に引く所の簾中抄と其文大に異也別に簾中抄と云書あり歌普通乃簾中抄に云天仁三年八月日向小二条亭に言談之次問曰假名多本何時始起哉又何人所作哉答云弘法大師作云云件事旨所見但大師女御自筆法華経供養時被行八講講師南北英才相通為導師云名清範慶祚等之輩各振富樓那之弁才之後源信僧都又勤此事況云云日本國者誠雖如來金言唯以假名可奉書弘法大師伝習諸真言梵字悉曇等密法之後寄四教文イロハニホヘトノ讃ヲ作給以來一切法文聖教史章

経典不離此讃文字也云云源氏物語ノ注河海抄に云今世乃ちなハ弘法初て作るなれの假名ハ日本紀万葉集乃ちきなるのめく也云云頃阿法師が高野日記に云海象高野ノ僧名ナリ乃縁あるまきものゝまふ中ふ大師山山をきうゝ也さ給たまて堂たてさせあるさの道のきゝ文字のるを考るハ考るあいをくさ断もたゝそいろはの四十八字をおへさせ給のゝりすゝ世の人をもちふるもるゝとゝ少之作りし云云ゝ日記の流ふ弘法大師うゝ山の堂を建るふ堂の指示を文字ふ当て八五重のゝもゝ文字を刻ゝ也先いろはを作り大工をもるゝて後いろはをいて指示を書て堂をたてられしとゝ云ゝ或説ふ杉の今敏ふいろは

を作れしと云ハかの口花の文をとろく仏ありそもそも
今世考ふいろはハ弘法の作也護命のまハあらず
一假名　假名ト書ヲカナトヨム假字ト書クヲヨシトス和語ヲ
書ル字ノ音ヲ假リテ書ル也字義ニ拘ラズ字音バカリヲ假ル
也日本紀ニ葉集ノ書ヤウヲカナガキト云即是也タトヘハウメ
ヲ字免ハナヲ波奈ト書ク類ナリ是假名ノ本也いろはヲハ
女假名トモ平假名氏云片カナヲハ男假名氏云
一柴　玉篇ニ柴仕皆切小木散林可燔者トアリ字彙ニ
柴薪也トアリ柴字ちはとよむ　ちくて薪ちぎ雑
木ハ如名をちはと云也別ちはと云ハちはの柴
と云ハ椎の木ちはとよむ柴とよむちはの木ちはの柴と云ち

ぬるでのちはいろ　ちはの倍子也　ちすちあふ柴と云フクラ柴ハ
フクラノ木也ヒサキヒサカキトモイフ　夜ちの多を付て木
をちの柴と云ちの柴ふハ　ちのちの柴を用ることちのちの柴をハ
木也　樵木也ソルバミノキ氏云　ドミノリノキト云ミナルナリ　柴垣と云ハ新木の小枝ヲ以て垣を
ゆひまはす也木の戸と云ハ新木の枝ヲ門の扉ヲ作ル
一印籠　印籠ハ二ツ共ニ唐物也大サ定ラザレ共大概往三寸五分
許ニテ重箱也三重四重アリ餝ハ椎朱堆黒螺鈿等種々
アリ其形圓ナルヲ藥籠ト云四方ナルヲ印籠ト云茶籠ハ藥
入也印籠ハ印ト印色ヲ入モノ也今世モ右ノ二色此方ヘ渡リ
ヲレヲ傳ヘテ座席ノ飾ニ違棚ナトノ置物ニスルナリ此方ニテ
今世印籠ト名付テ小キ重箱ノ両傍ニ通シノ管ヲ作リ

付テ緒ヲ通シ腰ニ付ル彼右ニ云フ所ノ藥籠印籠ヲ小クシタ
ル如キ者也今藥ヲ入ル者ヲ印籠ト云ハ名ノ唱ヘ違也小キ物
ナレハ印ハ入ラレズ藥ヲ入ル物ナレハ藥籠トユソ云ベケレ又笈ノ蓋ニ
ヤラワブリタト云モノアルハ右ノ藥籠ノフタノ如ク笈ノ身ノ端ヨウス
クシテ蓋ノ内ヘ呑ミ入ルヤウニシタルヲ云ナリ奇異雜談ト云書ア
リ古版也今ハ絶版ス室町殿ノ代ノ人ノ記シ名書ニテ明応文明
天文等ノ年号見タリ其書ニ古堂ノ天井ニ女ヲ磔ニカケ置
タル物語ノ中ニ云ヶ是ヲ見ズンバ有ヘカラズトテ藥籠ヨリ火
ウチ蠟燭ヲトリ出シ火ヲトモシ天井ニノボリテ見レバ女人ヲ
磔ニカケテオケリ云云此藥籠ハラフリヲ入タルナレバ大ナル物
ナルヘシ腰ニ付タル由ハ見エズ旅僧ナレバ笈ノ中ニ入ル具ニ

藥籠ヲ以テ蠟燭管ニシテ火打管ニモ兼子用ヒルベシ

一輪鋒（ボウノ）攷　神ノ攷ナリトニテ輪鋒ト云攷ノ形アリ其形叙ノ
鋒（ホコサキ）ヲ並ヘテ輪ニシタルガ如ク見ユル故輪鋒ト名ワル也熊野新
宮ノ神室ノ内嵯峨天皇ノ御奉納ノ御衾（フスマ）赤地錦ニ輪鋒ノ
紋ヲ織タル也其圖ニ赤地両面錦文輪（ミリン）羯摩（カマ）トアリ是ヲ見
レハ輪鋒ノ攷古キ物也貞文按輪羯摩ト云名目ハ梵語ニ
似タリ佛家ニ此攷傳来ノ因アル歟真言家ニ尋子穴ムヘシ
ヘシ攷ノ形叙鋒ヲ並ヘテ輪ニシタル如ク見ユル故輪鋒ト称シ
来レル実ハ劔鋒ニテハ有ヘカラズ獨鈷（トウコ）ヲ並ベテ輪ニシタル形
ナルベシサレハ両部ノ神道ニテ是ヲ以テ神ノ攷トスルナラム羽
里山伏ノ不動袈裟ニモ金ニテ輪鋒ヲ打テ付ル也佛家ニ用

二上峯ミモリシ
ホラノイ
ヒメ

ル故ナリ

一袍文　袍ノ綾ノ織文後代ニハ雲唐草輪無輪違ノ三種ノミ也

此外ハ裏文ナテ家ニ定ノル文アリ是ハ別也ニハカラズ　延喜儀殿式ニ綾ノ名種々見タリ共右ノ三種ノ名見エス又袍ニハ何文ノ綾ヲ用ト云定法衣服令ニモ儀殿或ニモ國史等ニモ見エス唯深色ノ定法ノミ見タリ上古ニハ只色ノ定ノミニテ織文ニ拘ル事ハナカリシナルベシ右ノ三種ノミヲ定テ用ル鳥羽院御代衣文ト云フ出來シ以來ノ事歟凡諸ノ裝束抄ニ記セル事共皆衣文ノ始リシ以後ノ事也上古ハ事煩シカラス著例ナトニ云フモナカリシナルベシ後代ニ至テ事繁多ニナレリ

裝束ノ事煩シクナリシハ一條院ノ皆リ始リ鳥羽院ニ至テ盛ニ成シナルベシ

一江め字　或説云いろはノ字四十七字ノ内四十五字ハ氏自字ノ音ヲ用タリ江めノ二字ノミ訓ヲ用タルカ如シ然レトモ訓ニアラズ江ハ江ニアラズ衣字ノ草書衣ヲ畧シテ江ニ作ル衣ハ音エ也め ハ女ニアラズ面ノ草書ヲ畧シテめニ作ル面ノ音ノヲ下略シテ用ユト貞文按此説いろは四十七字ヲ悉皆字音ニカタツケントシテ右ノ如ク説ヲ作ルハ誤也江ハ江也めハ女也日本紀万葉集等江ヲエトヨミ女ヲメトヨム也和名抄ニモ亦同シ四十七字ヲ強テ悉皆字音トスルニ不及也江め二ツハ訓ヲ用ル也俗ハ物ヲ強テソロフルヲ好ハ僻事也ヤスラカニ自然ニマカスヘシ

一ゑノ假名　カナニ用ル ゑハ ゑノ字ニアラズ元ノ字ニエノ音ナシカナ ゑハ衣ノ草書衣ヲ略シテ ゑニ作ルナリ尾ヲ下ヘハ子

テ書ベキヲハ子スシテ元ニ作ルユヘ元ノ草書ニ似ル也

一て字 或曰て字ハ易ノ乾ノ卦☰是ヲ草書ニシテ天ノ字ニ用ルナリ易ニ乾ヲ天トスルガ故也てヲ略シテ假名ノてトスル也

一水字 水字篆書ニ作ル水ノ流ル形ニ象ルト云説アレ本ハ易ノ坎ノ卦☵是ヲ竪ニシタル也八卦ハ文字ヨリ以前ニアリ坎ノ卦ハ水也

一廣有射怪鳥 太平記第十二建武元年二條関白家ノ侍隠岐二郎左衛門廣有禁庭ニテ怪鳥ヲ射ル時矢ノ宮殿ノ上ニ立シヲ憚テ鏑矢ニスゲタル雁股ヲ抜キ去テ怪鳥ヲ射タリシニ其矢ニ中リテ怪鳥落タリ羽ヲヲ開テ見ルニ長サ一丈六尺アリシト見タリ 此事信ジガタシ羽長サ一丈六尺ノ大鳥雁股モスゲザル鏑矢ニ中リ落ツベキ理ナシ雉ヲ射ルニ矢所ニ依ノ射貫タル矢ヲ負ナガラ飛去テ行方知サルヿアリ小キ雉ヲ射貫キタルダニモ如此也 大ナル怪鳥何ゾ雁股スゲザル鏑矢ニ中リテモロク落ルヿアランヤ雁股ヲ抜キ去トヲ云ハ偽ナルベシ太平記ノ類化軍談書ニハ文花ノ偽多シ畫ク信ジガタシ実ト虚ト相半セリ和漢共ニ記録ニ人ヲ褒ルニモ貶スルニモ必文花アリテ実ニ過タルヿ多シ又神佛ノ霊験ヲ記スルニ至テハ殊奇妙不思議実ニ過タル文花甚多シ皆人ヲ驚シ強ノ感動セシメンヿヲ欲シ言ニカヲ入レントテ文花ヲ書タル也

一日本為夷狄 腐儒ノ語ニ日本ハ夷狄ノ国也ト云是此国ニ生レテ此国ヲ貴ズシテ夷狄ト不義不礼ノ儒也支那ニハ天子

ヲ弑シテ王位ヲ奪フヲハテ風俗トス是夷狄ノ國也日本ハ上
古ヨリ天子ヲ弑セス王位ヲ奪フ者ナシ頼朝以来日本國中ハ
武家ノ改トナリタレ共天子ヲハ立テ置テ崇敬シ王位ヲ犯スヿハナシ
是日本ハ有道ノ國也君子國ト云美称ニ叶ヘリ支那ニハ聖人ノ
道有リナガラ君臣ノ義ヲ守ラズ王位ヲ奪フハ夷狄ノ國ニ非ズ
シテ何ゾ殷湯王夏ノ桀王ヲ弑シ周ノ武王殷ノ紂王ヲ弑シ
テ皆王位ヲ奪ヘリ後人皆其事ニ倣ヒテ王位ヲ奪ヘルナリ
日本ノ武烈天王ハ桀紂ニ似タル天子ナレ共武烈ヲ弑シ奉リテ
王位ヲ奪シ事ハナシ蘇我馬子ハ崇峻天皇ヲ弑シ奉リシ
カトモ王位ヲハ奪ハスタマ〳〵入鹿將門ガ如キ者王位ヲ窺フ
者アレ共人是ヲ赦サズ忽誅ニ伏スカノ　湯王武王天下ノ

百姓ヲ救フ為ニシタルトヽ云フハ遁辞也何ト言ヒ掠ムル共君ヲ
弑シテ王位ヲ奪ヒタル不義ノ名ハ免ルベカラズ

一　節日　雜令曰凡正月一日七日十六日三月三日五月五日七月
七日十一月大嘗日皆為節日○貞文按九月九日モ本ハ節
日也然共是ヲ止ラレタリ　饋日本紀大宝二年十二月甲
午勅曰九月九日十二月三日先帝忌日也諸司當是日宜
為廢務ト見タリ其ヨリ昔ハ節日也日本紀天武十年
九月九日宴見タリ

一　穎幾束　倭名類聚鈔國郡部ニ穎幾束ト見タリ
束ノ事詳ナラズ然共田令ノ義解云段ノ地獲稻五十束
束ノ稻春得米五升ヲ也即於町者須得五百束ヲ也ト

アリ一束ノ稲舂テ米五升ヲ得ルトアレバイマダ磨サル時ハ
一束ノ稲ノ米二斗許アルベシ是ニテ大概一束ノ分量ヲ知ベシ○
倭名抄ニ稲幾束トモ穎幾束トモアリ同事ナレモ穎字ヲ
宣トスベシ○又云右ニイマダ磨ザル時ハ一斗許アルヘシトヱルハ
モミヲ磨ルヲ以テ云ナリ○又舂得米五升トヱモ大概ヲ云ナ
ルベシ一莖二穂ノ多少年ノ熟不熟ニ依テ不同アルベシサ
レド其大概ヲ知ベキ也

一裝束文形　礼服ノ十二章其外麟鳳等ノ形ヲ用ル異朝
ノ制ヲ移シ用ラルヽガ故ニ一ツヽ各用ゐ之ノ所由アリ異朝ハ
物ヲ巧ム風俗ナル故衣服ノ文様ナドモ巧ニ理ヲ取テ用ゐ之
也此方ハ穏ヤカニ安ラカナル風俗故衣服ノ文ナド巧ニ理ヲ
ヌステセズ草木ノ花葉鳥虫等ノ形ノ文ニシテ宜ク見ユル物ヲ
文ニ用ル也理ニ陥ル事ナシ然ルニ壺井義知ガ裝束文飾推
談ト云書ヲ著ハシ和漢ノ故事ヲ本草倆目ノ鳥獸草
木等ノ巧能ヲ挙ニ此文ヲ用ル故ハ此理ヲヌステ也ト悉ク
其所由ヲ論辨セルハ牽強附會ニ近シテ却宜シカラズ且
鳥ダスキノ鳥ハ比翼鳥也トヱテ風鳥ヲ二ツ双ベテ其肉筋
ヲ連子鐶ニテ憎圖ヲ出シ風鳥ヲ強テ比翼鳥トシタリ大
ナル誤ナリ予現ニ風鳥ノ腸ヲ抜キ去テ乾ルヲ見シコトアリ
彼圖ニ違ハズ比翼鳥ハ山海経ニ図アリ別也壺井ガ書ノ
中ニテ文飾推談ノ一篇ハ悪キ書也一ツ小キ物ニモ是ハ何
ヲ象何ヲ表スナドヽ理説ヲ作ルコト近世ノ俗也

一祢宜　神ニ願事ヲ祈ルヲ子ギトモ。子ゲ氏云（カキノケコノ通音也）子ギハ
。子ゲヒノ三言ヲ約テ子ギト云也ガヒノ切（ナヒ）音ギ。トナル也神主
ハ神ニ祈リ申ス者ナルユヘ祢宜（ネギ）ト云ナリ祈（ネル）ノ字ヲ子ギ氏
子ゲ氏ヨムナリ古今集ノ俳諧哥ニ
子ギゴトヲ、サノミキヽケヒ、ヤシロヨリ、ハテハナゲキハモリトナルラメ（作者女子安倍清安）
一鳥頭（ヒ）太カ　鷹飼ノ佩ル太刀也江家次第其外古記ニ
見タリ其太刀柄頭ニ銀ニテ鴛ノ頭ヲ作ル由長秋記ニ見
タリ又熊野新宮神宝圖ノ中ニ鳥頭（ヒ）太刀アリ柄頭ニ金
ニテ鳳ノ頭ヲ作リ金ニテ輪鋒ヲ作テ鐔ニ入タル者也是ハ
神宝ノ制ニテ他ニ用ザル者歟鎌倉ノ在柄（エカラ）ノ天神像ノ太
刀ハ鳥頭太カナルヨシ物茂卿（荻生氏）ガ著セルナヽ〳〵ト云

鳩作太刀ハ金物ニハラ彫ル也柄頭ニ鳩頭ヲ作ルニ非ズサハ鷺作太カモ此類歟ト云人アリサモアラン歟

書ニ見エタリ何鳥ノ頭歟未詳古書ニ鷹飼ノ外ニ鳥頭太
刀ヲ佩ケイマダ見ズ又源平盛衰記矢嶋合戦ノ条ニ鴛鴦
作リノ太刀ト云モノ見タリ是モ鳥頭太刀ノ類ニテ鴛ノ頭ヲ
柄頭ニ作リタル者歟他書ニ見アタラズ
一蛇身　俗談ニ婦人深ク恨ヲ含テ変化シテ蛇ニ成リテ男ヲ
巻キ殺シタリト云ハ不審也人躰ニテ両年アリナガラ年ヲ以テ
殺サズシテ年モナキ蛇ニ成テ巻殺スヽハリ遠ケル也俗ニ蛇
身ト云ハ邪心ノ取違歟昔ヒ紀州道成寺ニテ安鎮ト云山
伏ヲ女ノ蛇ニナリタルガ取殺シタリト云事ハ元亨釈書ニア
リ彼書ハ奇怪ノ妄説ヲ造タル者也信ズルニ足ラズ
一説怪者　此名目ハレヽ草ニモ見タリ是ハ法座ヲ設テ

佛経ヲ読ノ僧ノ事ニハアルベカラズ昔ハ読経ト云説物アリ
今モ田舎ニハ残リテアリ本ハ佛ノ事ヲカナ文ニ書テフレラ
付テ説ヒラ是モ佛道ヲ勸ル一助トシタル也阿弥陀ノ本地
釈迦ノ本地五衆殿其外佛ノ事ヲ述タル者也後ニハ軍物
語ナドヲ作テカノ読経ノフレニ説ヒシ也是ハ俗人ノワザ也本ハ
僧ノワザ也其僧ヲ名ヅケテ読経者ト云ナルヘシ今モ読経語リ
トテ俗人アリ

一橋之男柱　平家物語長門本宇治合戦ノ条云人ヒトヽ家ノ長ノ
省ハ宇治橋の橋ノ二柱をこぼて小舟をもはずたるひ
り云云連字部良新撰字鏡云憧柄注云橋梁之左右之柱乎止
古柱。今モ男柱ト云ナリ

一榛藍摺　橋嘉樹問云延喜式踐祚大嘗會條ニ榛藍摺ト
アリ榛ハシレバミ也此柔モ藍ノ如ク青摺ニ用ルモノニヤヌハレバミ
スリナルベキヲハスリト假名アルヿ如何答曰榛藍摺ノ事知ラズ
凡推量ノ説ハ無益ナレモ今暫推量ヲ云ハン搋字ハ若シ搋ノ字
ヲ寫レ誤リタルナランカ搋字ソクトヨム玉篇ニ搋舒扇切衝
也トアリ藍葉ヲ搋キ爛カシ布ニ包テ模木ノ上ニ布ヲ敷テ
文ヲ摺リ出スナルヘシ榛搋字形相似タル所アリ延喜式ニ
搗橡ト云フモアルハ搋藍ト云フモアルヘキカト思ハル

一鮭一尺　鮭ハサケトヨム和名抄ニ鮭俗ニ用ニ鮭字ヲ非ト見タリ鮭
一尺ト云ハ一隻ノ誤也延喜式主計寮式ニ鮭二十隻雙割
鮭二斤八兩内子鮭一隻脱字歟。鮭二隻小三隻ト見タリ按隻ト尺

同音ナル故俗ニ隻字畫多キヲ煩シク思テ隻ノ代ニ尺ヲ用
ル也隻ハ物數一ツ二テ鮭ニ限ラヌ也今世外ノ奠ヲハ一尺
二尺ト云ハズシテ鮭ニ限リテ尺ト云習シタリイヤナル故ニ室町
殿ノ庖丁人大草氏ノ書ニハ鱈ヲモ一尺ト記シタリ。雜魚ノスヤリイ下ニ記

一滅紫　延喜式ニ滅紫ト云色アリ板行本ニ後人訓ヲツケ
シムラサキト付タリ此訓昔ヨリアルヤ否オボツカナシ其色文
字ニ付テ推量スルニ紫ノ色サメテ少色カハリガホナルヤウ
ナル色ニ染ルヲ云歟滅紫ノ字訓アセムラサキニヨムベキカ
色ノアセルト云ハ色ノカハルヲ云ナリ　スヘテ物ノ損スルヲアセルト云ヒシモ云也

一公卿貪金ヲ　いたのけやありけん武家作奏ハ公家
ハ代代ゲレ大納云代ゲレ中納云ゲフ人ハ年毎ニ

いまこの云ふやう勅使ヲ下シ給ふ事ハ公家ハ
いかゝ云ふ事ハ武士ハ食応ぶ物ハ大納云ゲ中納云ゲ
ゆゑ云ふ事ハ

一賄賂曲政ヲ　昔代ゲレ將軍ヤ管領ノ内付執事ノ人ハ
賄賂ヲトリテ天下國家治ムルヲ思ハズ只
ワレさへ賄賂ヲ取ゲ政ヲ曲ゲルヲ思ヒ
君ハ世ノ人ヲ思ヒ人ハ君ヲ思ヒ
世ノ人ヲ思ヒ人ハ君ヲ思ヒ
世ノ人ヲ思ヒ人ハ君ヲ思ヒ

右ハ条々時代子人の名もやうしなくすれども老のあやまりなく侍

一猴置馬廐　獨異志巻之上ニ曰東晉大將軍趙固所乘馬暴卒ス將軍悲惋客至ル吏不敢通ロ郭璞造門ニ語曰余能活此馬將軍慶召見璞令三十人悉持長竿東行三十里過丘陵社林郎散擊俄頃擒一獸如猿持歸至馬前獸以鼻吸馬馬起躍如今以猴置馬廐此其象也（獨異志偏列ス稗海之中ニ）　右忠寄鈔寫以惠

一覽筥　柳行李也漆塗ラズ白キマニテ銀泥ニテ繪ヲ書付也長一尺二寸許横幅九寸許モアルヘシ宣旨ヲ入ル也（禰口秘記云覽筥ノ大サ高サ八寸大家長一尺三寸横たすカケヱアリ）繪花鳥ノ類不定歌カブセ蓋也身ニ環ヲ打組緒ヲ

盛衰記ニハ里葛筥ト覽筥ト云アリツヽラニテ組タルヲモ用ル歌覽筥ト云名ハ外記ナドカ大臣ノ御覽ニ入ルベキ文書ヲ此筥ニ入テ持出ル故歌未詳

一隨身　京都ノ隨身ハ闕腋袍ヲ著テ表袴ヲ著也関東將軍家ノ隨身ハ赤地金襴ノ褐衣ニ狩袴也前々ヨリ如此云

一字　万葉集曰有吉田連老字曰石麻呂ト

一多治比丹墀三代実録（貞觀八年二月二十日ノ下ニ）天長九年夏四月丁亥木工頭從五位上多治比真人貞成等奉詔改多治比三字為丹墀ノ丹字

一僣著　ザンチヤクト云フ名目ノ習也（壹井説）僣ハワヅカ也著ハツク也裝束ノ長地ニ成ル程ニ長ノセズ僣ニ地ニ著ル程ニ

短キヲ云也延喜式障正式ニ其表衣裏ニ著地トアリ是ヨリ
出タル詞ナリ

一太子傳暦　仰本アリ今他版シテ世ニ少シ此書聖徳太子一生
傳記也撰者ハ平氏トアリ其名字并ニ時代詳ナラズ太子傳ヲ
日本紀ニ引合セ見ルニ日本紀ニ載ザル年月ヲ太子傳ニ載タリ
是寺怪妖妄ノ偽作ヲ述ルニ日本紀ニ載ル所ノ年月ニテハ其偽
作明ニ見ル故ワザト日本紀ニ載ザル年月ヲ捨テ偽作ヲ述
タル者也古キ偽書也彼日本紀ニ載ザル年月ヲ挙タル所巧
ニ偽ルニ似ル草ニ太子墓ヲ作リタマフ時ニヲキレカシヲタテ
子孫アラセジト宣ヒシヲ書ル仰版ノ太子傳ヲ引ケル也
日本紀竟宴　和哥ノ首書ニ沙門契仲カ記セルニハ一心戒文ニ
所引用ル太子傳今所流布スル太子傳ニナシ戒文ノ太子傳
古書ナルベシ或人云今世ニ亦太子傳九三通ガリアリ其
内ニ見合セテ可為證ト初戒文ハ延暦寺ノ僧光定述
作也續日本後紀ニ戒文撰シ奉ラル、事見タリトアリ
負文　按太子傳ハ古本トイヘトモ信シガタシ太子ハ日本ニ
佛法ヲ弘メタル大祖ナル故佛氏ノ徒尊崇ノ餘リニ寺妙
不思議奇怪妖忘ノ事蹟ヲ述テ太子ヲ讃美ス皆偽作
也不足取者也

一至宝　凡生活スル物其生命ヲ保ツ物ハ食物也故ニ鳥獸
魚蟲ニ至ルマテ食物ヲ求ルヲ以テ勤トス況ヤ人倫ヲヤ赤子
出産スレハ直ニ乳味ヲ求メ生長シテ四民各其家業ヲ

勤ルハ食物ヲ求メンガ為也食セザレハ生レ得ル生命ヲ
保ツ事ナラズサレバ人倫ノ至宝ハ五穀也金銀珠玉ヲ宝
トスレ𪜈其金銀珠玉ヲハテ五穀ヲ買ハント欲スルト雖𪜈ム年
饑歳或ハ兵乱等ニテ五穀ヲ賣ル者ナキ時ニ至テハ金銀
珠玉ハ食ハレヌ物ナレバ忽ニ餓死スベシ然レバ五穀ハ至宝也五穀
ハナマニテハ食ハレヌ物也田杵鋤鍬竈鍋釜ノ類是等ノ
器五穀ニ次ル宝物也五穀ヲ食ヘ𪜈衣服ヲ着ザレハ
凍ヘ死スサレバ衣服ハ五穀ニ等シキ宝物也食物ト衣服
ノ外ハ有用ノ宝物ニハアラズ皆無用ノ宝也永禄年中ノ
兵乱ニ天子モ饑渇ニ及ハセタマヒケレハ富有ノ高家
ヨリ米ヲ献シテ饑ヲ凌ガセタマヒシ由云傳ヘタリ上モ

百錬抄 後鳥羽

ナキ三種ノ神宝禁中ニ在トイヘ𪜈天子ノ御饑ヲ助ヲ助ケ
タマフ事ハナカリシナリ彼時ニ當テハ米穀ハ神宝ヨリモ貴
カリシヲ考ヘシセニ宝物ト称スル物ハ宝ナレ𪜈ハ宝ナレ𪜈五穀
衣服ト食衣ヲ調ル器物ヨリモ劣ル宝物ナリ後代ニハ
食テ生命ヲ保ツベキ米ヲ賣拂テ食ハレモセス金銀ヲ求メ
又生命ヲ保ツベキ米ヲ盗取テ刑セラレテ生命ヲ失フ者モアリ
又云君ニ仕ル臣ハ君ヨリ生命ヲ保ツ至宝ノ米ヲ給リ日々生
命ヲ全ク保ツハ大恩ヲ受ル也然ルニ大恩𪜈思ハズ食ハレ
モセヌ物ヲ給ル恩ヲ思ト誤ル者モアリ

一

准后　准三宮𪜈准三位𪜈又略シテ准后𪜈云也三宮𪜈
三后𪜈云ハ大皇太后宮天子ノ祖母也皇太后宮天子ノ母也皇后宮天子ノ妻也

百錬抄 字徳天皇養和元年二月十七日従三位通子故中院摂政女有准三宮事依可為

陰建久元年四月廿二日乙巳以母儀従三位藤原頼子奉号七條院注云去十九日准后ト日タリ

帝准母儀也

是也或ハ法親王等ヲ右ノ三后ニ准ゼラル、ヲ准三后ト准三宮ト准后ト云也准后ト云ハ三宮ノ御位ニ准ズルト云義ニハ非ズ三宮ニハ年官年ノ爵ト云事アリ准后ノ人ハ三宮ニ准シテ年官年爵ヲ賜ル事ヲ准后ト云也年官年爵ト云ハ三宮ヨリ毎年禁中ニテ除目（官ヲ任スル公事ヲ除目ト云）叙位（位ヲ授ラル、公事ヲ叙位ト云）之日召仕ル、家人ヲ出シ或作リ名ヲシテ家人ノ如クシテ官ヲ申給ル年官ト云位ヲ申シ給ル年爵ト云其官位ヲ給ハリタル人ニハ其官位ニ付テ米ヲ給ル事アリ其米ハ即チ其生君ノ得分（ブン）ニテル也此事ニ三分（ブン）ニ分（ブン）ニ合（ガウ）ナドト云フアレ共今略之（ユヘ略之也）米ヲ取ル事ト心得レバ違ナレ三宮ノ定リタル俸禄ノ外ニ禄ヲ増シ給ハラントテ年官年爵ヲ給ル也准后ニナリタル人ハ三宮ノ如ク年官年爵ヲ給ハル也右ニ云シ如ク大臣法親王等ニハ准后ノ宣下アリ女ニモ准后ノ宣下アリ百錬抄ニタタ見タリ

又百錬抄ニ御門院正治元年十二月十三日従三位源在子（今上母儀）有准后事

又百錬抄後深草院建長六年七月廿六日丙寅准三宮（従一位藤原貞子当今御外祖母）前太相国室家宣下也（元亨釋書貞子卿参入之）

又百錬抄後堀河院貞応元年四月十三日当今御母儀有准后事（御名字陳子）

又百錬抄四条院嘉禎二年十二月七日庚寅佐渡院姫宮諦子内親王准后宣旨廿日院号為明義門院

七月十日准后有院号（北白河院）

又百錬抄四條院貞永元年十七日壬寅前関白北政所（通家）有准三宮

今ハ年官年爵ト云事絶テ無シ之

一烟草　烟草ハ古代ナキ物也慶長ノ比蠻国ヨリ渡来ルト欤云傳タリ是ヲ不好人ハ毒物也ト云テ其害ヲ論スル

人モアリ酒ヲ多ク呑ム人ハ酒毒ニテ終ニ内損ノ病トナリ
或ハ吐血或ハ浮腫或ハ黄疸等ニテ死スル人アリ烟草ヲ
好テ烟毒ニ中リテ内損シ病ヲ発シテ死タルヲ見ズ然レ
ハ毒物ニ非ズ良薬ニモ非ス烟ヲ吸テ試ニ讀書写字
ニテ心倦ニ氣鬱シタル時ニハ気ヲ運ラシ鬱ヲ開クヲ覚ユ
食後ニ烟ヲ吸ヘバ口中爽ニナルヲ覚ユ此外ニハ何ノ事モナシ
尤無益ノ物也

一歌合ニ称ニ女房ト　禁中ニ於テ歌合ヲ
者ヲ女房トモ云フ例也これハ云上ノ由ニ於テ及
ムヲ栄関ト歌ヲモ判者判断シテ勝負ヲ分
ル時ヲ云フ女房ハ奇ヲ以テ悍ナル判断ス

ルヲ云フ

一讀人不知　勅撰の集ニ云フ人ヲ不知ト書ル
ヲ云フ或ハ又知レタルモ勅撰の人又ハ賤キ人又ハ
貴キ人の歌ニ有ルハ知レタルモ怪シキ歌ナリ
皆ナ人ヲ知レタル証ナリ

一勅撰集恋部　勅撰の歌集ハ恋の部を立テ君臣男女
好色の密事の歌ハ本書ニ記シテ有ルハ云ヲ密事を
のべ記シテ高ク悔ル所ナク之れを叙シテ後代ニ伝
ヘ残ス故ニ好色を悔ルベシ伝聞の風伝歌西土の詩
集ニハ恋の歌ト以テ載ル所ナリ国俗ト云歌の
詩ありなハ国中ニ在リ婦人其夫の久シク訪ザルを怨ム

侍ら婦人の作れる多くハ侍人か婦人の情を擬
して作れるなり男女ハ閨怨のみならず侍ハ彼國も
好色贈答の詩あるべけれども祕して外人ハ愛せざる
ゆゑなり侍集ハ我ならずして遊仙窟なるなり侍ハ
妙なる高尚なる作なり侍あるかの書ハ寓言なるゆゑあるなり
書なり実事ハ侍集ハ院祕して我ならぬ也閑なるさまを
取てなり

一神樂歌　神樂歌の中ハ好色男女ハ情をのべたるあり神ハ
ゆゑ好色の情をうるハ非礼なるべし然れども人の和睦
する事ハ好色の情ハ多くハ和睦の義をもて神を
なぐさめたるなり云々好色の事を思ひ
怪るべし此ハ此国の風俗之西土なるハ神廟にて歌ふ侍ら恭敬し
てこれ神の功德を讃歎たるなり侍ら國の風俗各別之

一規模　今世俗語ニ規模ヲハテ物事ノ驗ノアラハレヲトスル
ハ誤ナリ規ハ規矩ノ規ニテ圓形ヲ画クブンマハシノ一也模ハ鑄
物ヲスルニトロケタルカ子ヲ流シ入レイガタノ一也サレバ規模ノ二字
ハ物事ノ法式ニナルヲヲ云

一烏帽子　上古ノ冠モ烏帽子モ皆漆スリテヤハラカニテ
今ノ頭巾ノ如ク清少納言枕草子ニ兩ニ逢テ冠ノヒシゲタ
ルヲ見タリ今昔物語ニ狩田ノ重方妻ニ烏帽子越レニ
髻ヲ捕ラレタルヲ見タリ冠モ烏帽子モヤハラカナリシヲ知
ヘシ其ユヘシハ立烏帽子ニテヤハラカナルヲ上ヲ折タル所ヒケ

如クヒラメリ故是ヲヒレト云ヒレトハ平礼ト書也是假名書也平字ヒラトコム
ニ礼ノ字ヲ助字ニスルテヒレトヨミナリ平礼ヲヘイレイ又ヘイライト云ハアヤマリナリ
然ルニ鳥羽院御代ヨリ好色
風流ニテ衣文（エモン）トイフ事始リテ裝束モ強（コハ）リナリ冠モ烏帽子モ紙
ニテハリタキニシテスル事ニナリテ古様ハ失セタル也其以前マテハ
烏帽子ハ一種ニテアリシガ紙ニテ固（カタ）リ作ルニ至テサビト云事（サビトヘエホシノ
コトナリ）出来テサビニ品々アリ又眉ト云フモ出来テ眉モ品々アリ
折ヤウモ折テヌリ固（カタ）ク故折モ品々アリ衣文ノ始ハ饋世（ゾウセ）徒物語
神皇正統記等ニアリ烏帽子ニモ饋世（ゾウセ）徒（マギ）ニアリ烏帽子ヲ固（カタ）
ク作リシヨリ以後ニ至テ昔ノヤハラカナル烏帽子ヲモ名付テモ三
烏帽子ヒナレヒナ烏帽子ヒ云モミトハヤハラカニモシタル意也
ナレ字トハナヤシ折ノ略語也ナヤストハヤハラカニスルヲ云也曹（カデ）ノ

下ニキルヲ今モモミ烏帽子ナレヤナ烏帽子ト云ハ即是也梨
子折ト書ハアテ字也又ヘリヌリト云ハ何ヲホシニテモヘリヲ付
テヘリヲ滑ニヌリタルハ皆ヘリヌリ也今世ノ立烏帽子モ風折ヲ
ホシモヘリアル故ヘリヌリ也然レヒ後代ヘリヌリトテ引立烏帽子
ニヘリヲ付タルノミヲヘリヌリヒヘンヌリヒ云フニナリタリヘンヌリト
云ハヘリヌリノ轉語也前ニ云如ク昔ノヤハラカナル烏帽子シ折テ
キレハヒラメリ故ヒレト云今ノ風折モヒレナルヲ後代ニハ風折ト云
テヒレト云ハズ別ニ平礼ト云テ柳サヒノ立ヲホシノ頂ヲ折テ
是ノミヲ平礼ト云習ハシタリ退位ノ仕ヲキル也是ヘイライト
唱フヒレトコリ云ベケレ又無位ノ折烏帽子俗ニ侍ヲホシヌ
ハ立ヲホシヲ折タル物ニテマ子キノ三角ナルモノヒラタリヱヘ

是モヒレナリスベテヒレト云ハ折テヒラメタリシヲ云ナリ

一古冠　鳥羽院御代以前ノ冠ハヤハラカナリシハ前ニ云如シ日本紀ニ天武天皇十年六月壬戌朔丁卯男女始結髮仍著漆紗冠ト見エ十三年閏四月壬午朔丙戌ノ紀ニ男子有圭冠ト見タリ十年ヨリ十三年マデ冠制ヲ改ラレシ事見エザレバ十一年紀ノ漆紗冠ト十三年紀ノ圭冠トハ同物ナルヘシ漆紗冠ハ紗ニ漆スリテヤハラカナル冠也圭冠ハ其形ヲ以テ云也小神韻會圭字註ニ說文圭瑞玉也上圜下方ト云又閨字註ニ說文特立之戶上圜夕下方有似圭門ニ圭聲ト見タリ然レハ圭冠ハ上圓ニシテ下方ナル物ト見タリ今ノ立烏帽子ハ圭冠ノ形也古ノ圭冠ハ紗ニ漆スリタル物也圭冠ノ縫目ヲ前ト後ニナシテ著ル人ヲ今立烏帽子ト云圭冠ノ縫目ヲ左ト右ヘナシテ著テ手ヲ以テ額ヨリ後ノ方ヘ撫テヤリ髻ノ名會在リ之所ニテ皎リ寄セテアゲ結ル冠ヲ括ル緒ナリニテ括リ結ベハ髻ノ入タル所今世ノ冠ノ巾子ノ如クナル也アゲ結ノムスビアマリハ両方ヘ出テ今世ノ冠ノ笄ノ如クナル也今世ノ冠ノ巾子ノ前ニアゲ結ヲカラミ結タル形ヲ作ル礒ノ儀巾子ノ前邊ニ當テ竪筋アリ是圭冠ノヌヒメノ形也巾子ノ前竪通リニ〇如此節アリ是圭冠ヲウシロヨリ前ヘ折リ卷タル形也アゲ結ノムスビアマリノ両方ヘ出タルニカタトル也纓ハ今ハ二枚重テ串ニテ冠ノ後ノ壺ニサス也古ノ纓ハアゲ結ニ二枚八字ノ如クトゲ付タルト見エル也古ハ

燕尾ト云フバリラメノ尾ノ形ノ如ク直ニ下ヘ垂レ下ル也シタリ
柳ノ如クニハ非ズ又中子ノ前ノ根ノ傍ニ少分リ筋アリ是アゲ
緒ニテ括リテシソヨリタル形也今ハ冠ハ低ニテ張リヌキニシタル
物ナレモ上古紗ニ漆ヌリタル圭冠ヲアゲ緒ニテ括リ名形ヲ
コトゴトクカタドリウワレテ古キ躰ヲ遺セリ心ヲ付テ見ヘシ
古冠ノ事ハ菅像輯ニ記ス今大抵ヲ云彼書ト参考スヘシ

一裝束抄　諸家種々ノ裝束抄ニ記セル事トモハ一條院
御代ヨリシテ夫ヨリ後代々ノ事ヲ載タル也上古　法式ニハ
非ズ裝束ノ着例色ノ名目等細少ノ事共皆一條院御代
以來ノ事其木(モト)風流ヲ事トスルヨリ出タル也如此細少
事ニ拘ルハ上古ニハ曾テナキ也一位ノ深紫ノ袍四位ノ
深緋ノ袍ノ色里深ニシテ差別ナクナリシモ一條院御代ヨリ
以來ノ事ナリ

一入道　出家シタル人ノ入道ト称スルハ摂政関白家ノ人
ナラデハ称スマジキ事也常人ハ沙弥又ハ新発意ナド称ズベシ
ト云説アリ此事公ノ制度ニ非ズ令式国史等ニハ曾テ其制
度見エズ按ニ一條院御代御堂関白道長公ヲ入道殿ト称シ
其父法興院摂政兼家公ヲ大(オホ)入道殿ト称シケリ其比摂関ノ
權威甚重ク主上ニモ劣ラス程ナリシガ他人出家シテ
入道ト称スルハヲ憚リシガ後代法ノ如クナリタルナルベシ其私
ノ憚リニテ公ノ制度ニ非ルハナレバ入道殿ノナキ世ニハ誰モ入道
ト称シタリトテ咎ムベカラズ公法ニアラザル俗習ノイフ方公法

ノ如クナリシテ間々アリ

一ヘグトヽ云字　裝束ニヒヅキトヽ云フ事アリ其字ヲ引倍支。曳陪支。曳倍木ナド、書或ハ引耗トモ書来レリ引剥ト書ベシ剥ノ字ハグトヨムナリハトヘト音相通ユヘハグトモヘグトモヨムベシカノ引ヘギトヽ云ハ剥ノ義ナリ醫家ニテ生薑一ヘギトヽ云ヲ一片ト書ハ一ヒラトヽ云事ナリ片ノ字ヲヘグトハヨマズ生薑ヲ剥テ一片トナスナリ

一獸ニ名付　日本紀垂仁紀ニ昔丹波國桑田村ノ人甕襲ガ養レ犬ノ名ヲ足往トヽ云レ由見エタリ清少納言枕草子ニ一條院ノ養セタマヒシ猫ヲ名ツケテ命婦ノオモトヽ云犬ヲ翁麻呂トヽ云レ由見エタリ其外世々馬ニ様々ノ名アリ故斉ニ遑アラス平ノ宗盛木ノ下トヽ云馬ヲ得テ仲綱ト名ヲ改メシヨリ宇治ノ合戰ハアリシ也スベテ犬猫馬ナドニ當時世上ニ人ノ名ル名ヲバ付マジキ也女ノ名モ付ベカラズ客人來ル時ニ下人ナド彼獸ノ名ヲ喚ブニ若シ客人ト同名ナラバ不礼ナルヘシ用意アルヘキ事也我鳥獸ヲ愛スルトテ鳥獸ノ爲メニ下人ヲ責メ使フハ有マジキ事也人貴ク鳥獸ハ賤シキガ下ナルヿヲ忘ベカラズ

一古冠抄　古冠抄トヽ云書一巻アリ又一名ヲ何トヤラン云タリ今忘レタリ其書始ニ本朝人皇四代懿德天皇ノ御時ニ冠一服ヲ制シ給フト書出シテ夫ヨリ以下無根ノ妄説ヲ長々トヒキテ終ニ天冠地冠人冠上等冠典ト云中等冠傳ト云下等冠正ト云烏頭免腰蟾項ナトヽ云冠ノ儕圖ヲアラハセリ是古書ニ

ハ非ス太平記個目巻一附翼ノ中冠服偏ヲ別ニ取離シ写
シテ古冠抄ト名付タル者也或学者此古冠抄ヲ予カ方ヘ
遣シテ古書也ヤ否ト問シ人アリ又數年後又或人此書ノコヲ
問シ事アリ両度共ニ偽書妄作ナル由ヲ答タリキ彼書イカシタ
ルヲシヤ人ノ惑フ書ナル故此度ヲ記シ置ナリ

一煉弓　或弓術ノ書ニ弓ヲ煉ト云事ヲ云ヘリ煉トハ初学ノ時
我カ力ニ勝タル弓ヲハ引カズ我カ力ニテ自由ニ引ル程ノ相応ノ
弓ヲ引テ手前ヲ正シク射習フ事ヲ云也我カ力ニ勝ケタル
弓ヲ引ケバ我身弓ヲ引ル也強キ弓ヲ
我ハ引カントスルニ弓強キ故弓ニヒカレテ歯クヒシバリ胸ヨリ上
ニリキミ強クナリ腰ヨリ下足フミマテ浮キ立テ腰弱ク左右ノ
腕ハ屈テ伸ヒズ息ヲ上ヘセキアゲテ胸中甚苦シク腕振ル
ヘテ我ハ引タモタントスル間ニ弓ノ方ヨリハナレントスルユヘカラ
及ス心ニマカセズ放スユヘ矢所大ニ違フ也弓ノ諸ノ癖ハ強
弓ニ引立ラレテ弓ヒク手前乱レテ調ラサルニ依テサマ〳〵ノリセ
出ル也初学ノ人ハ強弓ニテハ矢行キヒシク遠ク飛ベシト思
テ強弓ヲ好メ共強弓ニテハ我チカラ弓ニ入ラズシテ口ヒ弓ノチカ
ラバカリニテ行クユヘ矢勢弱ク遠クヘトヾカズ中ニテ落ルモ
ノナリ我チカラニ相應シテ自由ニ引ル弓ニテ射レバ我チカラ
ト弓ノチカラト和合シテ手前乱レズ能調ルユヘ惣身ノカラ
弓ニ入リテ矢勢モキヒシク遠ニ至リ矢所モ違ハズ近年三十三
間堂ノ通シ矢ヲ目當ニシテ弟子ニ教ル師匠ハ皆弟子ニ強弓ヲ

引スルヿヲ好ム也弓ノヤカラニテ堂ヲ通サント思フガ故也常ニ強弓ヲ好メバ一生ガ間午前狂ヒテ調ラズ射術成就スルヿナシ又通矢ハ軍用ニタヘズ矢數ヲ射増シタル名ヲ取ノミニテ無益ナル業ナリ見セ物ノ類ナリ

一火災用心　我モ人モ火災ハ他所ヨリ来ルトノミ思ヒテ其用意ヲハスレ共自家ヨリ火災ノ出ヘキ事ニハ心ワカヌ者也明和ノ始比ヤ新井筑後守源君美ガ嫡孫源太郎邦孝ガ家ヨリ火災発タリ常ニ君美ガ著述ノ書共ヲ庫ニ入レ置ク火災ノ時庫ニ火ノ入ランヿヲ恐レテ其書共ヲ拔宮ニアヅケ納メ一荷ニナシ置ニスハ火災トイハド荷ハセニノ出サント用意シテ置タリシガ自家ヨリ火出テ彼書共残ラス焼失セリ惜ベシ予モ書ヲ借シ置テ共ニ焼タリキ是自家ノ火災ヲ羨テ思ヨラザリシ故也自家ノ火ヲ恐ベキヿ也

一盗賊用心　盗賊モ外ヨリ入来ル者也ト我モ人モ思ヘ共近ク家内ノ奴僕ノ中ニ在ルヿモアリ サレ共是ハ心毎家ニアラズ稀也夫ヨリモ猶近ク我胸中ニ盗賊アリ 美食好色大酒博奕等ヲ好ミ財宝ヲ失フハ我胸中ノ盗賊也外ヨリ入来ル盗賊ハ財宝ヲ盗ムマデノ事ニ過ス胸中ノ盗賊ハ家ヲ亡シ國ヲ失フ其害ヲナスヿ大也サレバ緊シノ胸中ノ盗賊ノ用心ラスベシ

一教子ノ用心　小児ハ好テ人ノマネヲスル者也猿楽ヲ好ム家ノ小児ハ猿楽ノマネヲスル博奕ヲ好ム家ノ小児ハ博奕ノマネヲスル文学ヲ好ム家ノ小児ハ文学ノマネヲスル武藝ヲ好ム家ノ小児ハ

武藝ノマヽ子ヲスル也二三歳ヨリ常ニマヽ子ヲシテイツトモナリ其事ニ馴レ深テ後ニハマヽ子ニアラズシテ実ニ其事ヲ行フモノ也詞ニテ云ヒ教ニハ小児ハ智ノナキ物ナレハ受用セズ常ニ其態ヲシテマヽ子サセルハ近道ナリサレバ父ノ身ノ行ヒ正レキ家ノ小児ハソレヲ見習ヒテ正レキマヽ子ヲスル也常ニマヽ子ル故詞ニテ教ズシテ自ラ行義正レキモノ也父不行義ヲシテ小児ニ見スレバ不行義ノマヽ子ヲスル也詞ニテ不行義ヲ戒メテモ道理ヲ弁ル智ナキ故其戒ニ背ク時大ニ詈リ打タヽキナドスルハ却テ親ヲ怨ル悪公ヲ引出ス基也ソレニテハ不行義直ルフハナレ又父行義正シクシテ見セテソノマヽ子ヲスル所悪キ他ノ小児ヲ友トシテ交レハ必悪クナル也是モ悪キ友ヲマヽ子ル故ナリ善キ他ノ小児ト交ラシムヘシ又小児ニハ酒ヲ一滴モ呑シムヘカラズ堅ク禁ズヘシ小児ハ五臓イマタ固カラズ心ノ臓カタカラサルニ酒ヲ呑シムレハ心気トロケ易クシテ心ノシマリナク愚ニナルモノ也父酒ヲ好メバ小児ニモ酒ヲ常ニ呑シムル故其小児成長シテ愚ナル人トナルモノ也賢ト愚トハ胎内ヨリノ生得トイヘド又養育ノシカタニモヨルベシ一概ニ云ベカラズ返ヽモ小児ハ父ノマヽ子ヲシテ善クモ悪クモ成ル者也詞ニテ云ヒ教テ善キ人ニセント思フハマハリ遠シテ且ナラス事ヲ願フナリ又小児三四歳ヨリ玩物ニハ筆低ヲ授テ常ニ筆ヲ取テ紙ニ墨ヲ付ルコトヲシナルレハイツヒナク筆ヲワカフヲシテ習テ手習ノ時ノ助ニナル也手習ハ五六歳ヨリ始ムヘシ学文武藝段ヽニ教ヘシ手跡ハ幼少ヨリ習シメザレハ物ニナリカタシ十四

五歳ノ比ヨリ善人ニモ悪人ニモ片付ベシ此比大事ノ時也
孫其友ヲ撰テ善友ニ交ラスヘシ悪友ニ交レハ悪人ト
成リ固マル者也父能ク心ヲ用ヘシ
一通シ矢　通矢ハ三十三間堂ノ縁ヲ射通ス也彼堂ニ間ヲ一間ニシテ柱ヲ立クベシ六
十六間也戦場六十六間射通シタレバトテ其矢甲冑ヲ貫クヿハ叶ハズ戦場ニハ敵
ヲ六間近付テ射ル習也近ケレバ甲冑ヲ貫ザルナシ又通矢ニ用ル弓ニカケ
ヲシタル物ニ麻ガラノ如ク軽キ矢ハ戦場ニハ用ラレズ又一畫一夜ニ万幾千トテ云
ロクシテ少ヤキテ付ケ外竹アハラニヨキ多ヲ空クシテ付ト云　四竹ハ堅多キ竹ヲ奪
矢数モ無用也戦場ニテ昼日夜夜矢軍バカリスルモノニハ非ズ又通矢ノ射手布ニ
テ腹ヲ巻キ弼ヲスリ薬ヲ呑テ射ルト云此ノ如クナルヿ戦場角ニ立スカホトトギス人ト
矢数ヲ射増シ天下ノ名ヲ取リタリ比戦場ノ用ニ立ザル事ヲスル遊藝ヲ同ジ品類
物人ノ目ヲ慰遠人ノ耳ヲ驚シ名ヲ売リ禄ヲ求ルマデノ事ニテ家勝武藝ニ非ズ然ニ
後代ハ射術ヲ教ル者モ学ブ者モ通矢ヲ目當ニシテ修行スルトニ成来リ通
矢ハ射藝ノ異端也心アラン武士ハ通矢ヲ望ムヿ勿

園書記